

8第1学年1組 生活科 学習指導案

日 時 6月30日(月)10:20~11:05

場 所 1年1組教室、北昇降口

授業者 菊地 陽子

1 単元名 にっこり フラワー だいさくせん

2 単元の目標

植物を継続的に育てる活動を通して、植物が育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にすることができるようにする。

3 指導にあたって

(1) 児童について

入学してすぐの頃、園や家庭において植物の栽培経験があるか聞き取りをしたところ、ほとんどの児童があると答えた。サツマイモやトマトなどの野菜が中心であったが、あさがおやひまわりなどの花を栽培したと答えた児童も多くいた。また、図画工作科「好きなものなあに」の授業では、花を描く児童が数名おり、植物を身近に感じていることが分かった。生活科で校庭をみんなでお散歩探検した際は、桜やチューリップを見付けては「きれいだね。」と話しかけてくる児童がおり、花を見たら誰もが笑顔になることを全体で共有することができた。しかし、自分一人で栽培したと自信をもって答える児童はおらず、今までの栽培経験は集団や家族の中で培ったものと思われる。

(2) 教材について

本単元は、生活科の指導内容(7)を基に構成している。1年生が栽培する植物と言えば、育てやすい「あさがお」が一般的であるが、今回は一人一人がより思いや願いを込めて栽培できるように多種多様な花の中から栽培したい植物を決めて栽培することとした。春蒔きで、夏に開花する花を調べ、その中から本学級の児童は「マリーゴールド」「ほうせんか」「ひまわり」「おじぎそう」「サルビア」「わた」「ヒヤクニチソウ」「コスモス」「ラベンダー」を選んだ。また、すでに栽培経験はあるものの、2年生がプレゼントしてくれた「あさがおの種」を蒔くことに決めた児童もいた。多種多様な植物を育てることで芽が出る時期も違えば、世話の仕方も異なってくる。異なる植物でも共通していることを見付けたり、違いを比較することでその植物特有の成長の仕方が分ったりする。さらに世話の仕方を自分で考えなければならず、責任をもって植物と関わっていく力が身に付くのではないかと考える。

(3) 指導について

入学したばかりの児童が継続的に植物の世話をするには自分事としての思いや願いをもつことが欠かせない。「自分が世話をしなければ枯れてしまう。」「自分が花を咲かせるんだ。」といった強い思いがあつてこそ毎日の世話を継続できる。そこで、自分だけの花を育てるという意識と愛着をもつことができるよう、第一次では春蒔きの花を調べ、その中で自分が育てたい花を決める。その後、「見付ける」「比べる」「たどえる」活動を重視した観察と交流の場を設定し、様々な視点から比較できるようにしていく。交流活動では、個々の気付きを共有することで、全体で比較したり関連付けたりし、気付きの質が高まるよう場を設定していく。その際、日常の世話の中での見取りを生かして意図的指名をしたり気付きをつないだりし、児童自らが関連付けできるようにする。無自覚だった気付きを価値あるものとして意識できるようにし、低学年らしい諸感覚を使った観察技能が身に付くようにしたい。第二次では一粒の種からたくさん種ができる事を確認し、命の神秘に気付くようにする。第三次では花や種を使った作品を作製したり、今までの栽培活動をまとめたりして、お互いに自分の花のよさを紹介し合うようにする。その際、友達のよさだけでなく、共感できたり世話を続けてきたりした自分のよさも自覚できるように価値付けをしていく。それぞれの花が咲いた時には、花を見た人だけでなく、自信に満ちあふれた子どもたちの「にっこり笑顔の花」が咲くように寄り添っていきたい。

4 単元の評価規準（総時数20時間）

(1) 単元の評価規準

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	植物を継続的に育てる活動を通して、植物が生命をもつてていることや成長していることに気付いている。	植物を継続的に育てる活動を通して、植物が育つ場所、変化や成長のようすに関心をもって働きかけている。	植物を継続的に育てる活動を通して、植物に親しみをもち大切にしようとしている。
小単元の評価規準	<p>①栽培活動において、植物ごとに特徴があることや、それぞれの植物に合った世話の仕方があることに気付いている。</p> <p>②植物について、生命をもつてていることや成長していることに気付いている。</p> <p>③植物の栽培を振り返る活動において、植物への親しみが増し、上手に世話ができるようになった友達や自分に気付いている。</p>	<p>①植物の栽培計画を立てる活動において、特徴などを意識しながら育ててみたい植物や、それに合った栽培環境を選んだり決めたりしている。</p> <p>②栽培活動において、植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に着目して観察したり世話をしたりしている。</p> <p>③植物の立場に立って関わり方を見直しながら世話をしている。</p> <p>④植物の栽培を振り返る活動において育てている植物のことや心を寄せて世話してきたことなどを振り返り、表現している。</p>	<p>①栽培活動や、話合い活動において、よりよい成長を願いながら、親しみをもって繰り返し関わろうとしている。</p> <p>②栽培活動において、自分の植物が元気に大きく育ってほしいという思いや願いをもって継続的に世話をしたり観察したりしようとしている。</p> <p>③これまでの栽培を振り返る活動において、作品に表したり友達と交流したりする活動を通して、植物と自分の関わりを進んで伝えようとしている。</p>

(2) 指導と評価の計画

単元(時数)	学習活動(時間)	知	思	態
はなをそだてよう (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や園での生活を振り返り、どんなことをしてきたか、どんな植物を育ててきたかを話し合う。 (1) ・春蒔きの花にはどんなものがあるのか調べる。 (1) ・何の花を育てたいかを決め、育てるために必要な道具について考える。 (1) ・これから栽培する植物の種をよく観察する。 (1) ・蒔き方を調べてから種を蒔く。 (1) ・芽が出てきた様子や成長の様子を観察し、友達と比べながらこれからの世話の仕方を確認する。 (2) ・観察して気付いたことや世話で困っている事を共有して、成長に応じた世話の仕方について話し合ったり世話をしたりする。 (本時4／5) ・花が咲いた喜びを共有し、花が咲いた様子を観察・記録する。 (1) ・花で遊んだり、開花した花を美しく残すための作品を作ったりする。 (1) 	① ① ① ① ① ② ③ ② ③	① ① ② ③ ② ③	① ② ② ③ ③
たねをとろう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・種のできる様子に着目しながら種を取る。 (1) ・集めた種を数えたり、実や種の特徴を話し合ったりする。 (1) 	②	②	
みつけたことをつたえよう (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの栽培活動を振り返り、気付いたことや楽しかったことを話し合う。 (1) ・これまでの栽培活動を自分なりの方法でまとめたり表現したりする。 (2) ・まとめたり表現したりしたものを紹介し合い、感想を伝え合う。 (1) 		④ ③	③

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

自分が育てている植物の今後の世話をについて、植物の様子を観察したり友達の植物と比べたりして気付いたことを共有する活動を通して、適切な世話の仕方を考えることができるようとする。

(2) 本時の終末に予想される子どものつぶやきと本時の手立て

【予想されるつぶやき】

「むしがこないように、すをまこう。」「ちいさいから、ひりょうをやってえいようとあげないと。」「せがたかいから、ささえるぼうをたてないと。」

地域人材との協働的連携

児童が世話をしている植物に今、起こっている問題の写真を提示し、これでいいのかと投げかけることから始める。解決策を考えるに当たっては、予め「栽培の達人」としてJAの方に協力を得て、幾つかの方法を提示していただけるよう連携をとっておくが、できるだけ自分たちの力で解決できるように、普段から本や家庭で調べるように促していく。

子どもが「自分らしい」に気付く価値付け

普段から、児童が植物の世話をしたり調べてきたりする姿を見取る。その見取りを生かして意図的に指名したり、紹介したりすることで、児童自ら気付きを関連付けられるようにしていく。活動を振り返る中では、友達のよさを発表するだけでなく、よさを見付けた自分や共感できた自分のよさにも教師が価値付けをして、自己肯定感を高めていくようにする。

(3) 指導過程（第1次 11／14時間）

学習活動・内容○児童のつぶやき	時間・形態	○ 指導上の留意点 ◆本時の重点 ※評価
1 本時の問い合わせ (1) 前時を振り返り、今の自分の植物がどのような状態か観察する。 ・つぼみ・つる・元気がない ・小さい・虫・病気 (2) 自分の植物の状態について伝え合い、本時の問い合わせ ○やっぱりむしにたべられていた。 ○はっぱがきいろいろなってきたよ。 びようきかな。 ○まだ、ちいさいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">じぶんのはなに、どんなせわが ひとつうかな？</div>	7 (個)	○ 最近の植物の状態を聞く発問をし、起こっている問題をいくつか出することで、友達と比べて自分の植物はどうなっているのかという視点をもって観察にいけるようにする。 ○ 観察したことを基に名前のマグネットを貼ることで、児童が自分の植物に起こっている問題の捉えが表出できるようにする。 ○ 朝の世話の際に、児童が自分の植物の写真を撮り、共有できる状態にしておくことで、どのような状態か全体で確認できるようにしておく。
2 植物の今後の世話を考える。 (1) 問題がある場合の解決策を出し合う。 ・予想 ・家で調べてきたこと ・JAの方の話 (2) 世話の仕方を決める。 ・支柱・肥料 ・噴霧（酢・牛乳など） ・防御（アルミホイル・網など）	20 (一斉)	○ 事前に本や家庭で調べてきた児童を意図的に指名し、解決策にはどのような方法があるのかを板書をし、共有できるようにする。 ◆ JAの方の話をオンラインで聞けるように準備し、児童が考えた以外の解決方法を知ることができるようにする。 ○ なかなか解決策が決められない児童のために板書をフローチャート形式にし、自分で決められるようにする。 ※ 自分の植物に起きてるいる変化や成長の様子に着目し、今後の世話の仕方を考えている。(観察・カード・発表・事前の調べ学習) ◆ 本時の感想や友だちのよかったところなどを発表させることで、それを言えたことの素晴らしさを価値付け、栽培活動に自身がもてるようする。
3 本時を振り返る。	5 (個)	

(4) 板書計画等

につこりフラワー
だいさくせん

④じぶんのはなに、どんなせわが ひつようかな？



ちいさい



はっぱがきいろくなつた



むしがいる



せがたかい

- ・ひりょうをあげる

- ・えいようのあるひりょうをあげる

- ・くすり・す・ぎゅうにゅう
- ・あるみほいるをしく

- ・そえぎをする